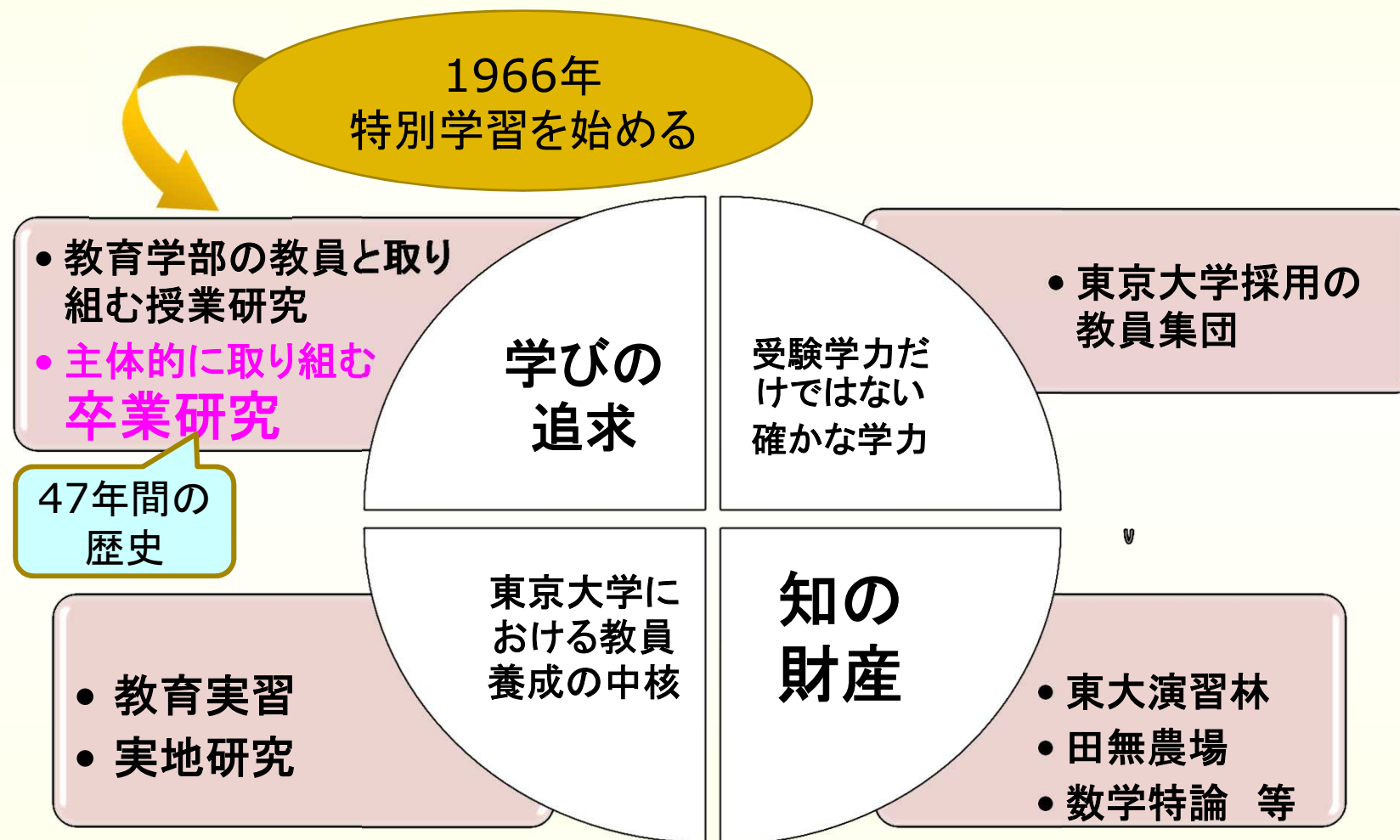


# 事例2 東京大学附属中等教育学校



(福島昌子教諭作成報告資料より一部引用、2014)

# 「協働学習の追求」



学び合いの中から  
身につくものは...

## 【授業改革が目指す方向性】

- ・一方的に効率よく知識を伝達し、暗記させる教え込み授業を変える。
- ・教科書、ノート of 学びから、仲間と共に探求し合う問題解決的な学びに転換する。



# 教科学習と総合的な学習



教科学習だけでは得られない幅広い体験をさせ、「大学社会につながる人間の育成」を行っている。

→ 卒業研究

→ 課題別学習

→ 総合学習入門

# 総合学習入門 1・2年

少人数で身近な課題から  
学習活動を行い、自ら学ぶ  
学習の基礎・基本を養う

1年生

- ・国際理解
- ・フィールドワーク(東海道研究、東大探検など)

2年生

- ・半径2km研究(調査・フィールドワーク・発表)
- ・3クールによる身体表現(ダンス・演劇・民俗芸能)



# 課題別学習3・4年

- 4 分野  
「自然・環境」「人間・社会」  
「科学・産業」「創作・表現」
- 12～15講座から選択
- 郊外での調査活動、宿泊を伴うフィールドワーク



異学年で構成された各テーマに分かれ、各講座の課題の研究を深めながら、総合的な学習の方法を身につける。



# 宿泊研修 5年

## 広島コース



## 北海道コース



## 大和コース



# 卒業研究 5・6年

毎年、さまざまな賞を受賞

自分で決めたテーマを、2年間通して追及し、論文にまとめる。  
4年間の総合学習の経験をもとに、個性や特性を生かしながら、  
指導教員の下、自分の力で論文や作品を作り上げる。



<内閣総理大臣賞>

「野川 ～より良い川を目指して～」

<文部科学大臣賞>

「広告と人々の購買意欲～色彩から見る広告」

<銀賞>

「夏目漱石の小説に見る空の描写表現」

<銀賞>

「『名富』という姓の男」

<銅賞>

「日本の子どもの『算数力』を考える」

AO・自己推薦入試にも有効！

# 1 卒業研究の指導の流れ

4年生  
1月

オリエンテーション



テーマ決定

2月



5年生

所属グループ・指導

4月

学習(先行研究・知識  
訪問・実地研

5・12月

1月

中間発表

6年生

まとめ・執筆

4・6月

卒研提出

7月

発表会

9月

## プレゼンテーション

「これまでに明らかになったこと」  
「これから明らかにしたいこと」

- ・研究目的
- ・研究方法(内容)
- ・結果、考察
- ・まとめ
- ・今後の方向性

(報告書)  
1,600字  
×  
3枚

(発表)  
プレゼンテーション

研究目的  
・研究方法(内容)

- ・結果
- ・考察
- ・結論

文化祭発表



## 2 テーマを決める


「卒業研究の良し悪しはテーマで決まる」

### 「学習」と「研究」の違い

学習とは⇒既に誰かが知っていることを学ぶこと。

研究とは⇒専門の学びをとおして「問い」を立て、自ら  
発し、その「答え」を自分で見つけること。

発展的可能性があるテーマであること

- 
- ① やりたいこと
  - ② やれること
  - ③ やらなければならないこと

なぜだろう？  
どうして？  
疑問や問題意識  
がもてていること

### 3 卒業研究の構成

テーマ「 ○ ○ ○……」

<研究動機・目的>

<研究方法・内容>

- ① 先行研究の調査(文献調査など)
- ② 実験・実態調査
- ③ 比較と傾向
- ④ 検証(結果と考察)

<結論>

・仮説(問い)に対する自分なりの答え

※ 実験結果を述べるのではなく、自分なりの答えや、(新)知見を述べる。

# テーマ「野川 ～よりよい川をめざして～」

具体例①

## <研究動機・目的>

中学時の遠足や総合的学習の調べ学習より、水への興味がわいた。水に対する自分の意識を見直したい。

## <研究方法>

- ①野川に対する**基礎知識としての文献調査**。
- ②野川の**実態調査(水質調査など)**。
- ③住民と行政の集会に参加⇒**活動傾向を比較**。
- ④水質調査と、その調査の意義に対する**検証**。

## <結論>

- ・野川の問題は人的な影響によるものである(事実や他者の見解より)。
- ・行政と住民の連携が必要である(実態調査による検証)。
- ・行政と住民の連携のあり方における提言。

# テーマ「夏目漱石の小説に見る空の描写表現」

## <研究動機・目的>

本を読むことが好き。漱石の人気の理由を「空の描写」から考える。

## <研究方法>

- ①漱石の基礎知識をえるために情報収集(文献調査など)。
- ②『三四郎』『それから』『門』の中の空に関する描写分析。
- ③描写分析より、自分なりの考察。
- ④漱石と鷗外の空の描写の比較。
- ⑤漱石と鷗外の空の描写の比較からの考察。

## <結論>

- ・漱石は空の描写を風景として捉えているばかりでなく、心情にも重ねている。
- ・鷗外は空に対する描写は少なく、表現も質素なものが多い。
- ・漱石が好まれる理由の一つには、空を文章にて、季節、物、色を使い巧みにきれいに表現しているところにあるのではないだろうか。

## 4 卒業研究の要件とそのための対策(例)

卒業研究の要件	そのためにすること
① 研究の前提を明らかにする	研究の視点を明示し、重要な概念は厳密で正確な定義を行う。
② 問いは未知のものであること	先行研究を調べ、わかっていること、わかっていないことを整理し、それ故の問題点を体系的に書く。
③ 自分と他者の意見を明確に区別する	他者の引用の示し方、出所の明示は厳密に行う。
④ 自分の意見には論拠を示す	素材やデータの分析は、自分の意見の証拠として示す。
⑤ 批判に耐えられる自分の意見をもつ	自分の意見に対し、あらゆる面から検討し、自分の立場から反論する。

## 5 卒業研究の評価について

5・6年次のそれぞれの年度で評定をつける。  
指導教員個人の評価ではなく、グループの教員の合議により  
評価とする。

### <評価の観点①>

- ・提出物の提出状況
- ・授業の出席率
- ・毎回のカードへの記録の記入状況
- ・取り組みと活動状況
- ・発表会のプレゼンテーション能力

### <評価の観点②>

- ・自分の意見・考えが論拠と共に明確に述べられている。
- ・仮説から真理を導き出せている。
- ・結論を導くための過程が客観的・主観的に述べられている。
- ・オリジナリティ(独創性)がある。
- ・客観的な方法により検証されている(先行研究と結びつけられているか)。
- ・妥当性のある先行研究の文献の量と質。

卒業研究(論文)が提出されてから、グループの生徒の論文をグループの教員は全員のを全て読み評価を出す。

評価の基準と観点を一人ひとりに丁寧に指導する。

## 6 東大附属の課題

### 1. 教員の指導のあり方の差

- ・教師の考えを押し付けていないか。
- ・生徒の主体性を重んじているか。
- ・生徒任せにしていないか。
- ・教師の専門性による指導の偏りがないか。

### 2. 評価に対する教員間の捉え方の差

#### <評価の観点②>

- ・自分の意見・考えが論拠と共に明確に述べられている。
- ・仮説から真理を導き出せている。
- ・結論を導くための過程が客観的・主観的に述べられている。
- ・オリジナリティ(独創性)がある。
- ・客観的な方法により検証されている(先行研究と結びつけられているか)。
- ・妥当性のある先行研究の文献の量と質。

そのために・・・

グループの生徒の論文をグループの教員は、全員のもを必ず全て読み評価を出す。

そのために・・・

グループの教員構成はあえて教科を分散させる。3年に一度のサイクルで、グループのリーダーとメンバーを交代する。